

「水防災意識社会 再構築ビジョン」に基づく 富士川流域の減災に係る取組方針

取組実施状況（案） ～代表事例～

平成31年4月25日

富士川流域における減災対策協議会

- 小中学生等を対象とした水災害教育の実施
- 出前講座を活用した講習会の実施

- 目的:防災訓練への参加を通じた防災教育の充実
- 実施日:平成30年9月2日(日)
- 実施内容:

- 指定避難所となっている甘利小学校を会場に、住民主体の避難所運営を行う「特定地区総合防災訓練」を実施。
- 避難所の機能や防災グッズ作りなどの研修会を実施。
- 過去の地域の災害発生状況、早期避難行動の重要性等について、小学生から高齢者まで約300名の参加者へ呼びかけを行った。



○ 要配慮者利用施設の避難計画の作成及び訓練の促進

- 目的:避難準備情報によるに基づく要配慮者の避難訓練の実施
- 実施日:平成30年9月2日
- 完了:継続実施
- 実施内容:
 - 指定福祉避難所となっている社会福祉協議会施設において避難準備情報に基づく要配慮者の優先避難訓練を実施。
 - 当該訓練は、社会福祉協議会3施設の防災訓練を兼ねた内容で、要配慮者の受付、エアマット・災害用トイレの使用方法等の確認を行った。
 - 要配慮者と付添い者計38名参加。

平成 30 年度韮崎市総合防災訓練 9/2 (日)

市では防災週間に実施する総合防災訓練において、①避難準備情報と災害発生情報による「2段階訓練」、②各地区「共通訓練項目」の設定、③指定避難所施設を利用した「特定地区総合防災訓練」等に取り組んでいます。各自治会・自主防災会の皆様には、ご理解、ご協力をお願いします。

午前 7:00 避難準備情報

韮崎市の総合防災訓練では、防災行政無線が2回鳴ります。

1回目 午前7時 “避難準備情報(訓練情報)”

台風や大雨等を想定した場合の要配慮者(発災時に介助を必要とする方)の優先避難訓練のため、市内一斉放送を行う。

※ この訓練の参加者は、福祉避難所に避難を開始する。

※事前申込み地区のみが対象の訓練です [P6]



健康状態の確認



エアマットの利用

○ 地域減災ハザードマップ作成事業の実施

- 目的: 地域減災マップの作成を通じた地域の危険個所の初動規定の確認
- 実施: 平成30年度
- 完了: 継続実施
- 実施内容:
 - 土砂災害、洪水等のハザードマップ対象区域となっている地区において、地域単位の減災マップを作成する事業を実施。
 - 事前講習、フィールドワークを通じて、危険個所のチェックや地区の初動規定の取り決めを行った。
 - 市内3地区(山口・坂ノ上・湯舟地区)で実施。

平成30年11月作成
旭町山口地区 減災マップ 9,11,12組

想定事態 震度6弱以上の大地震で、建物倒壊あり

9,11,12組の避難経路と初動規定

9,11,12組の一時避難場所

<p>【旭町山口自治会 9,11,12組初動規定】</p> <ol style="list-style-type: none"> 大地震の発生時の行動 <ol style="list-style-type: none"> まず、それぞれの身の安全を確保します。 揺れがおさまってから、落ちついて一時避難場所(バスステーション前)に向います。 可能であれば、避難する前に以下の対応をします。ただし、無理をしないこと。 <ul style="list-style-type: none"> ・ガスの元栓を閉めます。 ・電気のコットンを落とします。 ・用意していた非常時持出品を持って避難します。 避難行動 <ol style="list-style-type: none"> 避難は原則徒歩です。 避難行動では、立ち止まらない、戻らない、ことを誓いましょう。 一時避難場所では、最悪の事態に備え、集団行動します。 家族や家族や介護者等の身の安全の確認 <ol style="list-style-type: none"> 警戒(津波、地震、強風)が出た場合、早めに集合避難しましょう。 おじいちゃんとおばあちゃんは、真っ先に避難させましょう。 	<p>公的機関情報</p> <p>韮崎市役所 0551-22-1111</p> <p>韮崎警察署 0551-22-0110</p> <p>韮崎市立病院 0551-22-2221</p> <p>城北消防本部 0551-22-2311</p> <p>韮崎市社協 0551-23-5080</p>
---	---

【旭町山口地区 地域初動規定】 自治会の初動規定です。

- 発災したらずまず自身の身の安全を確保し、落ちついて行動しましょう。
- 用意していた緊急時持出品(リュックサック等)を持ち、速やかに組で指定した空き地などの一時避難場所に向います。
- 家族内に緊急連絡先等(介護認定者、高齢者、病人、障がい者、乳幼児等)がいた場合、一時避難場所に連れて行ける状況であれば、同行します。
- 一時避難場所に連れて行けない状況であれば、要配慮者等に「あとで助けに来るから」と伝え、できるだけ安全な状況下に保護します。
- 一人ひとり、自分の飲み水(500mlのペットボトル)は持って避難しましょう。
- 組の人で足とまり、周囲の安全を確認しながら指定避難所に向います。
- 避難として徒歩で避難します。
- 避難途中に、家の中から救助を求めている人を発見した場合、二次災害防止のため、「すぐに助けに来るから」と声をかけます。
- 避難所の2次受付に、組ごとにまとめた避難者名簿を提出します。
- ペットは避難所の建物内には入れません。外での飼育となります。
- 要配慮者、ケガ人、妊婦、旅行客以外は一律、公民館の外で待機となります。
- 避難者は本部の指示に従い、積極的に互助活動に参加しましょう。
- すべて本部の指示に従い、勝手な行動は厳禁です。



○ 減災リーダーによる家具類固定サービス

※実施中につき過去写真

- 目的:地震の際に家具類が落下し貴重な生命や財産を失うことがないように、固定サービスを実施する。
- 実施:平成31年2月
- 完了:継続実施
- 実施内容:
 - 市内に540名いる地域減災リーダーが主体となり、独居高齢者宅や避難行動要支援者名簿に記載のある家などを中心に、家具類の固定を行った。
 - H30年度については、中田町において固定作業を実施中。



○ 自主防災会等の強化・育成及び水防活動への参加を促進

- 目的：甲斐市地域防災リーダーの育成
- 実施期間：平成30年6月13日～7月7日
- 実施内容：
 - 「自助」「共助」による地域防災力の強化を目的とし平成28年度から「甲斐市地域防災リーダー養成講習」を開催。
 - 自治会推薦者及び一般応募者を対象に、1人につき全3回の講習を受講。
 - 講習・実習内容は、避難所運営や自主防災マップ作成、自主防災組織による先進事例発表など。
 - 平成30年度 新規認定者数 48人
 - 甲斐市地域防災リーダー累計 187人
 - 講師
災害・防災ボランティア未来会
甲府地区消防本部
NTT東日本
敷島台自主防災組織



自主防災マップ作成実習



応急救護訓練

○ 防災行政無線の改良、防災ラジオ等の整備

- 目的: 防災行政無線の難聴地区にある市指定避難所へ「戸別受信機」を設置し、関係者に対して正確な情報を伝達できるよう対応を図る。
- 実施場所: 山梨県育精福祉センター
- 実施日: 平成30年3月20日
- 実施内容:
 - ・施設の宿直室には、常時、関係者及び職員が常駐しているため、宿直室へ設置する。
 - ・「戸別受信機」による防災行政無線からの情報を、速やかに宿直者は放送設備(館内放送)を利用し、施設敷地内に居る者へ情報伝達を図る。



○ 町障がい者福祉会と町教育厚生常任委員会との合同研修会の実施

- 目的: 災害時に被災者となるリスクが高い障がい者の支援組織を対象に、逃げ遅れゼロを目指す。
- 実施日: 平成31年2月6日
- 実施内容: 昭和町障がい者福祉会が主催となり、「昭和町における防災について～自助・共助・公助」をテーマとした町教育厚生常任委員会との合同研修会を実施した。

会場: 昭和町総合会館

参加者数: 24人

H31.2.6
「昭和町における防災」について
～自助・共助・公助～
昭和町役場 企画財政課 危機管理係 伊藤

洪水ハザードマップ

昭和町 洪水ハザードマップ

現在のハザードマップ (平成24年作成)

国土交通省甲府河川国道事務所公表 洪水浸水想定区域図 (想定最大規模) (平成29年3月公表)

平成30年度 新たに洪水ハザードマップを作り直します!

避難準備・高齢者等避難<避難勧告<避難指示(緊急)

③避難指示	③避難指示(緊急)	釜無川・荒川の ①「氾濫注意水位」 ②「氾濫危険水位」 ③「計画高水位」 を注視し、降雨量等をみながら判断。 ※基本的に短時間・局地的な大雨(ゲリラ豪雨)は対象外
②避難勧告	②避難勧告	
①避難準備情報	①避難準備・高齢者等避難間	

平成28年台風第10号による水害で高齢者の被災が相次いだことから名称を変更

※大雨の際、外へ出るのが危険な場合は建物の2階以上へ避難する「垂直避難」を！
テレビ・ラジオ・防災行政用無線など公共機関からの情報収集をしましょう。

防災無線を聞き直すことができます。
防災無線の放送を聞き取れなかった、聞き逃した、という場合は次の番号に電話をかけていただくと防災無線の放送内容聞き直して確認することができます。

【防災行政無線テレホンガイド】
フリーダイヤル 0800-800-9103
一般の有料電話 055-275-9003



○ 地域減災ハザードマップ作成事業の実施

- 目的:防災リーダーを中心に防災マップ作成の講習を行い自主防災力向上へつなげる。
- 実施期間:平成30年11月24日～平成30年11月25日
- 参加人員:講習修了者36名
- 実施場所:山梨県消防学校
- 実施内容:防災リーダー養成講習にて防災マップの作成講座を行い、各自主防災会にてマップを作成。自分たちが住んでいる地域の実情や災害リスクを再確認してもらいながら作成した。



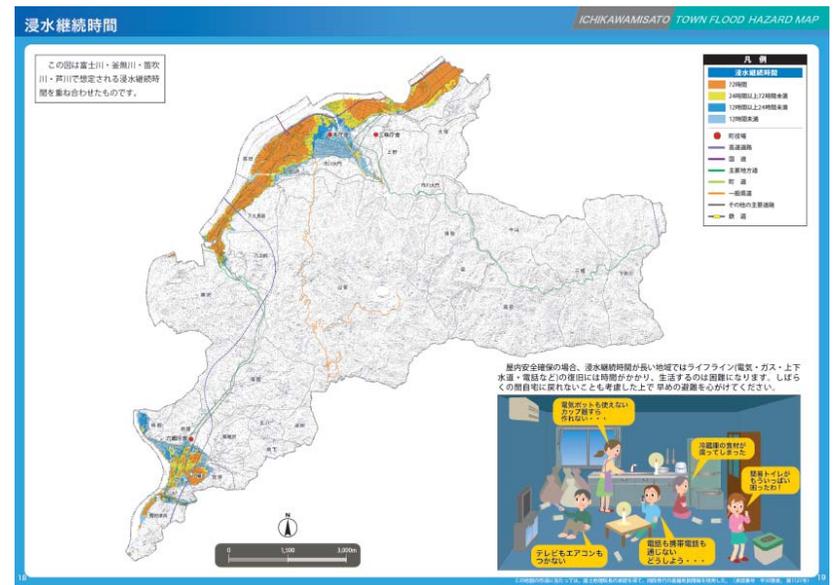
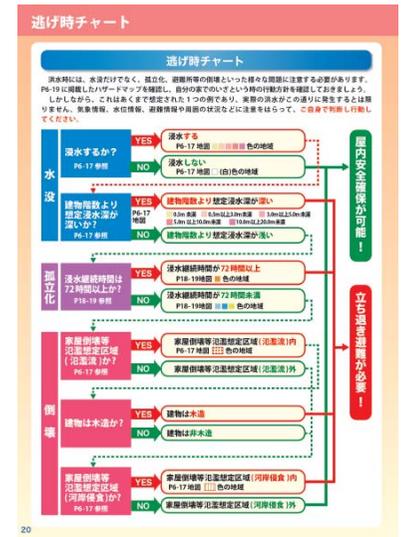
防災マップ作成方法の講義



実際にマップを作成

○ 想定最大規模洪水を対象とした、洪水ハザードマップの作成・周知

- 目的: 出水期前に、想定最大規模洪水を対象とした、洪水ハザードマップの更新を行い周知する事により被害の軽減につなげる。
- 実施期間: 平成30年6月22日～
- 実施内容: 平成29年に国と山梨県により想定最大規模の降雨を前提とした洪水浸水想定区域が公表されたことを受け、「市川三郷町洪水ハザードマップ」を更新。このマップでは、富士川・釜無川・笛吹川・芦川が大雨によって増水し、堤防が破壊された場合に、浸水の広がる範囲とその深さを想定した「洪水浸水想定区域」を示した。このマップを利用することによって、町内の危険性の確認、避難所等の確認など、その時に対する備えができる。新たに浸水継続時間や逃げ時チャート、風水害時の防災メモを加えたので、「マイタイムライン」の参考資料に利用できる。



市川三郷町洪水ハザードマップ

◆逃げ遅れゼロに向けた実施機関の協働・支援等

富士川町

○ 土砂災害・洪水ハザードマップの作成(見直し)

- 目的：土砂災害・洪水ハザードマップを作成し各戸に配布することで、災害による被害の軽減や事前の防災対策が可能となる。
- 着手：平成30年8月22日
- 完了：平成31年2月28日
- 実施内容：
 - 富士川・釜無川・坪川・滝沢川が破堤した場合を想定した浸水範囲や浸水深を表示。
 - 平成31年3月25日、町内約6,300戸に配布。



○ 公共施設表示看板に「避難地」、「避難所」の表示

- 目的：避難地、避難所を住民に確実に伝える
- 着手：平成30年12月
- 完了：平成31年2月
- 実施内容：
 - 市内11か所の公共施設表示看板に「避難地」及び「避難所」の表示を行った。
 - 平成30年度までで塩山地区全避難地及び全避難所の約9割の設置が終了した。
 - 今後勝沼地区及び大和地区の避難地、避難所の表示を実施する予定。

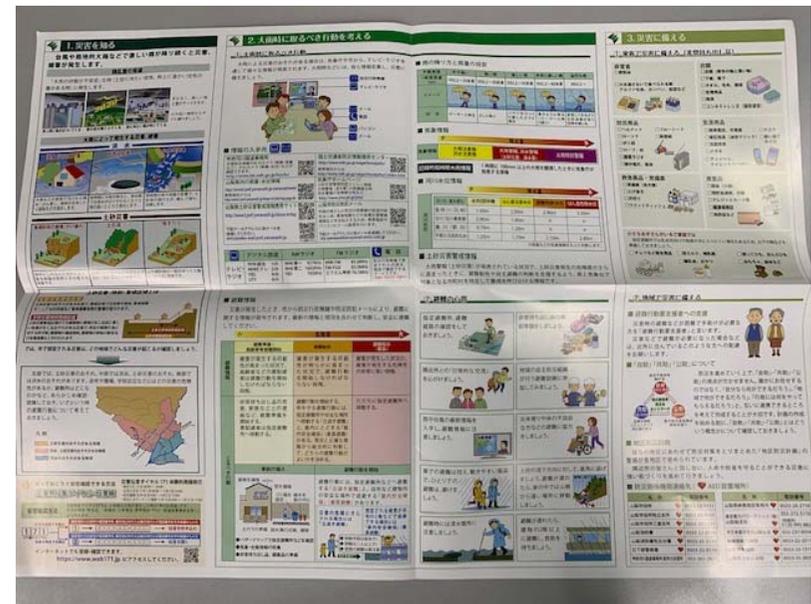


○ 地域減災ハザードマップ作成事業の実施

- 目的:ハザードマップを制作することにより、市民一人一人が浸水害の被害軽減につなげる。
- 作成日:平成31年2月28日
または
- 実施期間:平成30年10月4日～平成31年2月28日
- 実施内容:
 - ・浸水想定区域の更新
 - ・学習面の改定
 - ・航空写真を使った自分の住んでいる場所がわかりやすいマップ



作成したハザードマップ



○ 水防団によるポンプ操作訓練の実施

- 目的：渋川排水機場内の排水ポンプ設備を平成30年3月に更新し、水防団への操作勉強会・排水ポンプ設備運転の訓練を定期的に行い富士見地域への水害を未然に防止する。
- 実施内容：渋川排水機場の排水ポンプ(100 m³/min)×2基他施設の更新が完了。
- ポンプ更新期間：H29.2～H30.3
更新費用：約2億円
- 石和分団排水機隊(水防団)へ新たな排水ポンプの操作勉強会及び訓練を平成30年5月に実施。

排水ポンプ更新



定期的な訓練



○ 関係機関が連携した実働水防訓練の実施

● 目的

関係機関が、災害などに対して共通の認識を持ち水害被害を未然に防止する。

● 実施日

平成30年6月3日(日)

● 実施場所

笛吹市境川町大黒坂地区

● 訓練参加者

地域住民67名、山梨県5人、市職員30人
消防団133人、警察署4人 計239人

● 想定する災害

- ①発生要因：梅雨前線による集中豪雨
- ②被災想定：土砂災害

※各機関ごとに情報収集と集約を行うとともに関係機関と情報共有を行いました



※防災知識や避難方法についての学習や土砂災害の危険地域についての確認をしました。



○ 水防連絡部会等による水防団等との合同巡視の実施

- 目的:
出水期にあたり河川の氾濫及び土砂災害等の発生の恐れのある危険箇所の巡視・点検等を一層強化するとともに、水防関係機関との情報連絡体制の強化を図る
- 実施日:平成31年6月22日
- 実施内容:
 - ・河川管理者と連携を図る中、水防危険箇所の巡視を実施
 - ・危険箇所の巡視等により発現された不具合箇所の提言



巡視箇所の確認



巡視の実施

○ 自主防災組織を対象とした防災研修会の実施

- 目的: 出水期前に開催することで、正確な情報の入手方法や、水害を正しく学ぶことにより、各自の対策を考えてもらう。
- 実施日: 平成30年6月29日
- 実施内容:
 - ・内容: 甲府地方気象台職員を講師に、水害の他、各種気象災害の影響、気象情報の入手方法、避難方法などの防災・減災対策を学ぶ。
 - ・会場: 身延町中富総合会館
 - 参加人数: 55名(自主防災組織対象)
 - ・ねらい: 基本から学習することで、災害を正しく理解してもらい、各自主防災組織における災害対応に活かしてもらう。



気象台職員による説明



研修会場全体の様子

○ 避難情報に関する意見交換会の実施

- 目的：地域防災力の強化
- 開催：平成30年6月26・28日、7月3・5日
- 参加人数：約290人
- 実施内容：避難所運営図上訓練

【研修内容】

避難者の年齢・性別等それぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか自主防災会毎に体験した。

【意見交換】

避難者をどこに配置するか、通路をどこに作るか等、避難所で起こりうる様々な出来事にどう対処していくかを意見を交わしながら訓練を実施した。



○ 自治会を対象とした防災研修会の実施、水防訓練の実施

住民の防災意識向上のための取組

●富士山まちづくり出前講座

- ・ 富士宮市内房小学校 6年生
- ・ 風水害について
- ・ 洪水想定区域図を用い危険区域を把握



社会経済被害の最小化のための取組

●水防訓練の実施



○ 自主防災会等の強化・育成及び水防活動への参加を促進

ふじBousai 2018

- 目的:
市内で起こり得る自然災害に関する「知識」を学び 地震体験車や初期消火などを実践的に「体験」し、参加者が学んだ「知識」と「体験」を、各家庭や職場、自主防災会の防災対策につながる効果的な防災・減災イベントを開催した。
- 実施日:平成30年11月17日(土)
- 会場 :ふじさんめっせ
- 内容
 - 体験エリア
自衛隊による炊き出し、地震体験車、
応急手当、負傷者の搬送方法、家具の固定
災害食クッキング体験
なりきり写真撮影会(自衛隊・消防士ほか)
 - 知識エリア
ガリバーマップで富士市の災害を知ろう!
防災関係機関や市防災関係部署のパネル展示
 - 防災グッズエリア
防災グッズの展示・販売、商品のプレゼンテーション
 - ステージエリア
こども防災チャレンジ、講演ほか



災害対策車両展示(トイレトレーラー)



河川課・水防団 展示ブース

○ 要配慮者利用施設の避難計画の作成及び訓練の促進

- 目的:大雨時等における円滑かつ迅速な避難の確保を図るため、要配慮者利用施設の避難計画の作成及び訓練の促進を支援する

- 実施期間:平成30年3月から

- 実施内容:

<避難確保計画の作成支援>

- ・学識者による研修会
- ・施設管理者(事業種ごと)向け説明会
- ・専用Webサイトの開設、作成手引き・計画ひな形提供

計画提出状況:599/711施設 (提出率84%, H31.2末)

<施設の訓練支援>

- ・防災メールによる情報伝達訓練(約3.5万人)
- ・浸水や土砂災害の恐れがある個々の事業所に対する実動訓練支援



牛山静岡大学教授による研修会



浸水が予想される就労継続支援事業所の訓練支援

○ 小学生等を対象とした水災害教育の実施

- 目的:小学生を対象に、川で遊ぶためのルールや水難事故にあわないための知識を学んでもらう。
- 実施
 - 平成30年6月14日 南湖小学校(中北)
 - 平成30年6月15日 明野小学校(峡北)
 - 平成30年6月22日 大塚小学校(峡南)
 - 平成30年6月27日 御坂東小学校(峡東)
- 実施内容
 - ・川で遊ぶ際の注意事項について説明し、チラシを配布した
 - ・簡易雨量計を用いて降雨量の観測方法を説明し学習してもらった。
 - ・ダムの役割について説明した。



6月22日 峡南建設事務所実施状況



6月14日 中北建設事務所実施状況

○ 小中学生等を対象とした水災害教育の実施

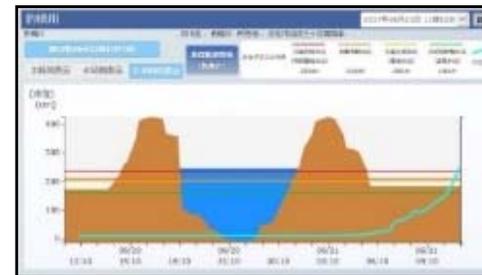
- 目的: 主に県内の小学4年生を対象に、河川管理者が発表する避難に資する情報の意味を正しく理解し、その情報の入手先や入手方法を知ることにより、水災害等に対して適切な避難行動が判断できるよう啓発するもの。
- 実施期間: 通年
- 実施内容:
 - ・行政等の水防業務の概要(水防団、市町及び県の役割)
 - ・サイポスレーダーによる雨量、水位情報の入手方法(雨量、水位グラフの見方)
 - ・河川管理者の発表情報と市町の発令情報(避難勧告・指示など)
- 実施場所、参加人数:
 - ・県庁「土木防災情報センター」
 - ・全61回、全3,238人(大人も含む)



県庁見学会の様子



サイポスレーダー(トップ画面)



① 雨量・水位情報(水位グラフ)



④ ライブカメラ(出水状況)

静岡県土木総合防災情報「サイポスレーダー」の主要な機能

- ① 雨量・水位情報 : 県内各地の雨量計・水位計のデータをリアルタイム表示
- ② 気象情報 : 大雨注意報や洪水警報等の気象注意報・警報を表示
- ③ 防災情報 : 台風情報、津波情報、土砂災害警戒情報を表示
- ④ ライブカメラ : 県及び国の監視カメラ(河川等)の静止画像を表示
- ⑤ ピンポイント天気予報: 最大42時間先までの詳細な天気予報を市町別に表示

○PC、スマートフォンで防災・気象情報の配信：降水短時間予報の改善

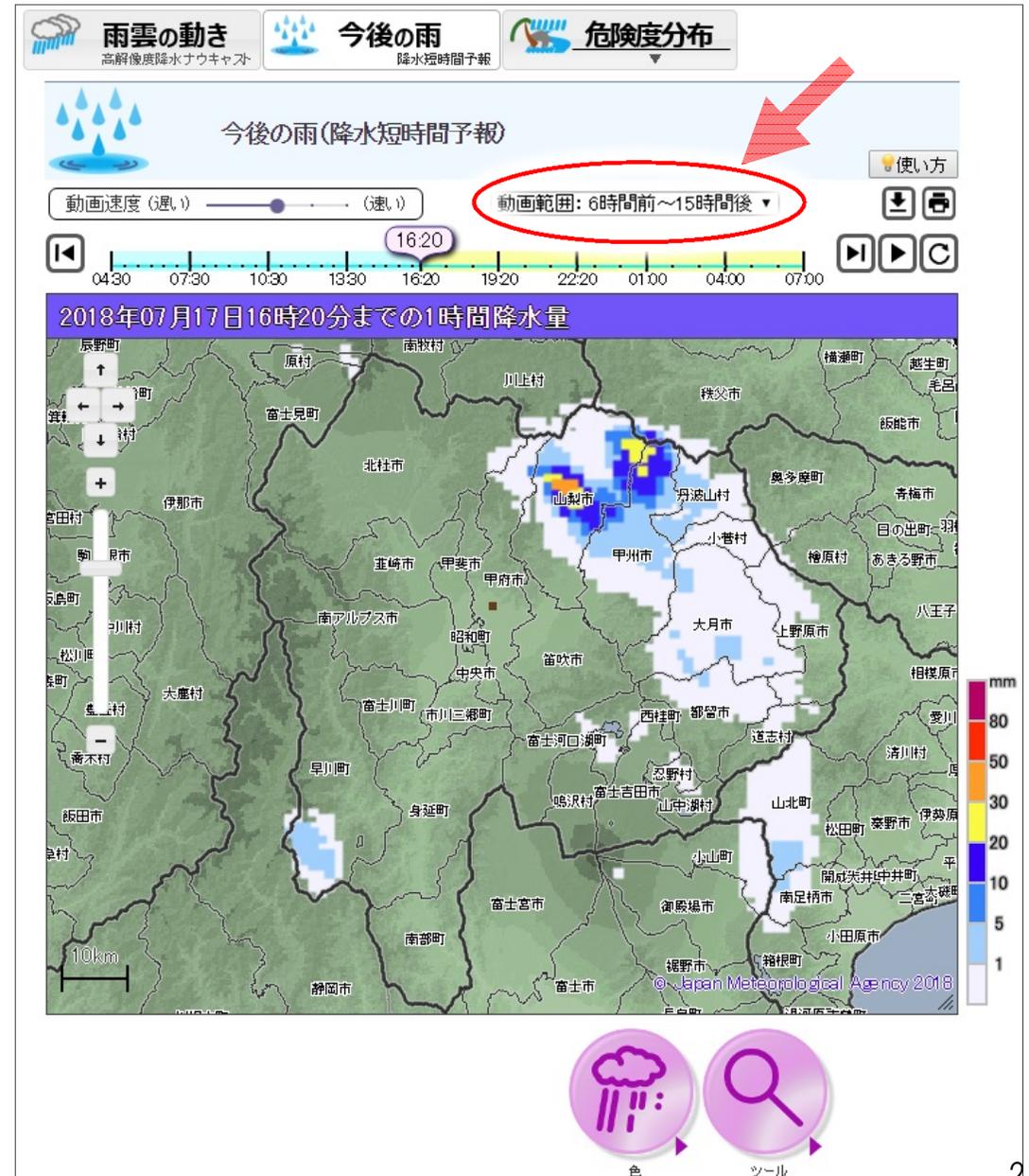
● 目的

- ・ 早めの避難行動を後押し
- ・ 前日の夕方の時点で、夜間から明け方の大雨の見込みについて把握

● 実施日：平成30年6月

● 実施内容

- ・ 降水短時間予報をこれまでの6時間先までから15時間先までに延長



○ 洪水対応情報伝達演習

- 目的: 富士川沿川自治体の首長(防災担当職員含む)と甲府河川事務所長(河川系管理職員含む)の出水時における情報共有のためのホットラインを実施。
- 実施日: 平成30年5月11日
- 実施内容:
 - ・水防連絡部会の全市町(全16市町)にホットラインを実施
- 取組による効果、ポイント
 - ・水位状況に即したホットラインを実施するために、現在の水位情報、氾濫危険水位到達の見込み、今後の対応などについて情報共有を実施。
 - ・昨年度の演習をを踏まえ、所内の災害対策室内のレイアウトや班内の役割明確化することにより、訓練開始直後からより迅速な訓練が出来た。



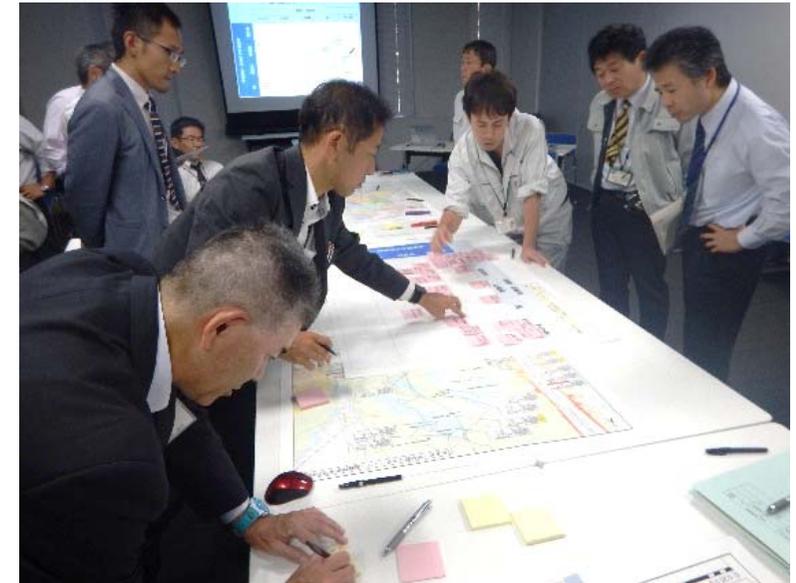
事務所長によるホットライン



破堤箇所の対応について議論

○ 広域避難に関する調整、避難経路の検討及び支援

- 目的：広域避難の必要性と今後の課題を検討する
- 実施日・実施場所：
平成30年10月24日（水） 山梨県庁
平成30年11月26日（月） 中央市役所玉穂庁舎
- 実施内容：
 - ・立ち退き避難が必要な地区と、指定避難所の利用可否判定結果を確認した。
 - ・避難所収容人数の見直しを行った。
 - ・本勉強会で対象とする広域避難基本検討における設定条件のもと広域避難者数の算出や、避難の方向性を評価した。
- 取組による効果、ポイント
 - ・避難判断基準等検討支援システムを用いてリアルタイムで検討内容を反映し、検討を支援。



課題について意見交換



勉強会の様子₂₇